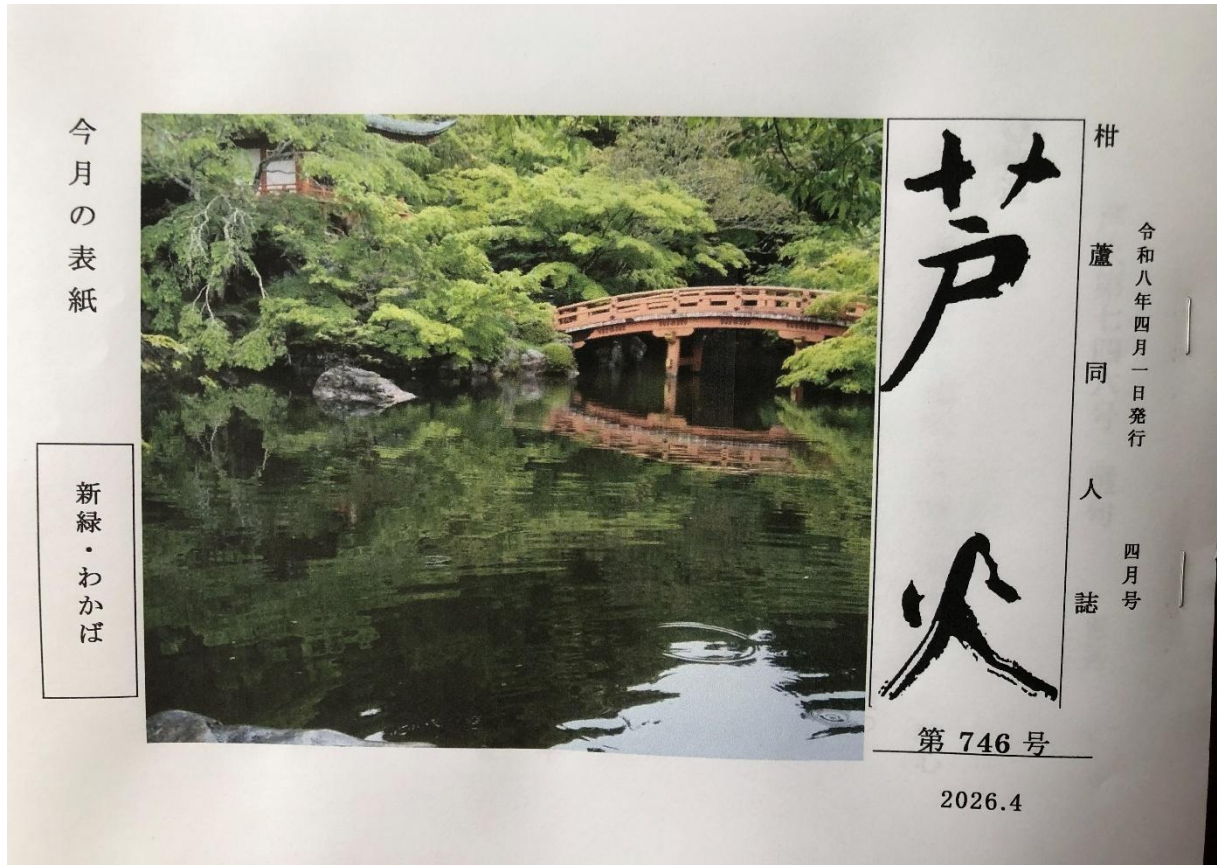


俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第746号（令和八年四月号）

- ・表紙：「新緑・わかば（若葉）」（次月兼題）
- ・初夏の季語（植物）



【新緑の子季語】

緑、緑さす

【解説】

初夏の初々しい若葉の緑をいう。その頃のさわやかな気候ともあいまって、目にしたものの気持ちを清々しくしてくれる。また段々と緑を増してゆく木々の微妙な色の違いも、この季節ならではのもの。

【有名俳人の句】

- ・新緑やたましひぬれて魚あさる／渡辺水巴
- ・新緑や日光あぶら濃くなりて／日野草城
- ・子の皿に塩ふる音もみどりの夜／飯田龍太
- ・摩天楼より新緑がパセリほど／鷹羽狩行
- ・新緑の香に新緑の風を待つ／稲畑汀子
- ・新緑の闇よりヨーヨー引き戻す／浦川聡子

【若葉の子季語】

朴若葉、藤若葉、若葉寒

【関連季語】

青葉、草の若葉、茂、新緑、新樹

【解説】

おもに落葉樹の新葉のこと。やわらかく瑞々しい。若葉をもれくる日ざし、若葉が風にそよぐ姿、若葉が雨に濡れるさまなどいずれも美しい。

【有名俳人の句】

- ・若葉して御めの雫ぬぐはばや／松尾芭蕉
- ・あらたふと青葉若葉の日の光／松尾芭蕉
- ・又是より若葉一見となりけり／山口素堂
- ・若葉ふく風やたばこのきざみよし／服部嵐雪
- ・不二ひとつづみ残してわかばかな／与謝蕪村
- ・若葉して又もにくまれ榎哉／小林一茶
- ・雨雲の谷にをさまる若葉かな／正岡子規

☆高得点者および高得点句

*前月の清記表に記載された10名の50句のなかから互選の結果、以下の同人が高得点者となりました。併せて高得点句も掲載します。

<高得点者(敬称略)>

21点 温州、15点 穂心、11点 勝

<高得点句(4点以上)>

- ・抹茶あり地酒もありし梅見茶屋／温州・・・6点
- ・無住寺に人の声あり梅の花／温州・・・6点
- ・薄氷や風の形に光りをり／穂心・・・6点
- ・早春や野山わずかに動きけり／温州・・・5点
- ・干上がりし湖底より橋山笑ふ／穂心・・・5点
- ・松江の地唄んですする蜆汁／要・・・4点
- ・土手柳風にもつれてまたとけて／六甲・・・4点
- ・風花やもはや異郷となる故郷／碧亥・・・4点

☆特選句および選評

*50句の中で特によかったと思った句に選評を付して各人が一句選びます。

特選句には2点のポイントが与えられますが、特選句が必ずしも高得点句になるとは限りません(高得点句になるには多くの同人の選句が必要です)。

- ・抹茶あり地酒もありし梅見茶屋／温州・・・1名の選
(選評)・梅見も最近結構派手に、賑やかになってきたようだ。
- ・薄氷や風の形に光りをり／穂心・・・2名の選
(選評)・何気なく見過ごしてしまう冬の景色のひとつだが、当句の鑑賞眼は少し違って鋭い。「風の形」と言い得て巧み。
・鋭い観察眼です。薄氷はちょっとした風にもその形を変えます。
その変った形に沿って太陽光も反射すると。

- ・早春や野山わずかに動きけり／温州・・・・・・・・・・1名の選
 (選評)・厳しい冬を乗り越え万物の始動を作者は全身で感じています。
 草木の芽吹きは野山を数ミリ持ち上げたような、圧倒的な大きさの単位の中でミリ単位の膨張を感じた作者は素晴らしい。
- ・干上がりし湖底より橋山笑ふ／穂心・・・・・・・・・・2名の選
 (選評)・昨年来冬場に雨が記録に少なく、各地のダムの渇水が続いており、この句が状況を代表している。
 ・今年は各地で水源の池が干上がり問題となり、かつて住民たちが住んでいた橋や住居跡が無残な姿で現れる。
 「山笑ふ」の季語が人間の業の愚かさを笑う「嘲笑う」に想える。
- ・松江の地偲んですする蜆汁／要・・・・・・・・・・1名の選
 (選評)・松江、それは青春の思い出の地。宍道湖のシジミの味は忘れられない。
 二十数年訪れていない。
- ・紅梅や野点楽しむ娘たち／勝・・・・・・・・・・1名の選
 (選評)・紅と茶の緑、それに娘たちの着物の色。美しい。
- ・風花やもはや異郷となる故郷／碧亥・・・・・・・・・・1名の選
 (選評)・長い間、故郷に帰る余裕がなかった。久し振りに帰ってみると、そこはもう異郷のようだった。何とも言えぬ共感を憶えました。
- ・水鳥の頻りに騒ぐ風は春／穂心・・・・・・・・・・1名の選
 (選評)・水鳥と風によって、いかにも春を感じられる句に仕上げられている佳句です。「風は春」と言い切っている点も流石です。

☆その他のトピックス

1. 今月号の清記

◎今月は10名の方が合計50句を出句されました。

2. 近況報告等

◎温州より、柑芦会公式フェイスブックに『俳句の会「芦火」同人募集』を掲載した旨報告させて頂きました。

◎要様より、「道案内五百円」という題の<ショートショート>を掲載して頂きました。

◎碧亥様より近況報告がありました。

様々な世情は世情として「九十歳それがどうしたおらが春」という心境だそうです。

◎要様が朝日俳壇に投句した俳句が入選されたそうです。

【口中に念仏のあり寒泳ぎ 長谷川 選】

要様、おめでとうございます。

◎修平様より、和歌山大学のクリエ（学生自主創造支援部門）の成果発表会に参加し学生たちの活動に対して質問と感想を述べ激励をしたとのご報告頂きました。

◎編集者・穂心様より、伊丹市が後援する市民俳句の集い行かれたとのこと次で次の様な報告を頂きました。

『有名俳人・坪内捨典さんの句に次のような有名俳句があります。

- ・三月の甘納豆のうふふふふ
- ・たんぽぽのぽぽのあたりが火事です

伝統俳句からすれば。とんでもないような句ですが、ある意味若い人の気持ちを掴んだ俳句が多いようです。

この度の市民俳句の集いでも自由題応募者の中で次の俳句が選者から高評価であった。

- ・しゃぼんだましゃぼんだましゃぼんだましゃぼ

当日参加者の中では評価は低かったが、坪内さんは高評価だった。

写実ではないが、しゃぼん玉遊びの景は見える。しゃぼんだまという季語だけだが、途中で割れたものまで読んでいる、とのこと。』

<俳句の会「芦火」概要>

- ・会員は柑芦会会員
- ・現在の会員は大学3期卒から25期卒の11名
- ・昭和38年(1963年)結成・・・約60年の歴史
- ・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
- ・創刊以降毎月発刊。令和4年(2022年)6月に第700号発刊。
- ・50号ごとに句誌を発刊。令和4年5月に「芦火第14号句集」発刊
- ・創刊時からの延べ会員数、72名(高商32名、高商教授1名、大学39名)

<編集者・コンタクト先および会費>

- ・編集者：穂永 千秋(大学17期)(俳号：穂心)
メルアド：suishin2010@dream.ocn.ne.jp / 携帯：090-9887-2513
- ・その他のコンタクト先：
 - ・山下 勝(大学14期・前編集者)(俳号：勝)
メルアド：yama723@nifty.com / 携帯：090-1349-6727
 - ・平林 義康(大学20期)(俳号：温州)
メルアド：hirabayashi9497@yahoo.co.jp / 携帯：090-8525-7293
- ・会費：年会費1万2千円

以上
(文責：平林 温州)